名寄市立大学の窓から～知への誘い～

vol.35

子どもによくみられる症状と手当て(3)
「ひきつけ（けいれん）」

保健福祉学部　看護学科　教授　永谷（ながたに）　智恵（ともえ）

数年前のことです。看護学生の実習指導で、入院したばかりの子どもを受け持つことになり、学生と一緒に病室にあいさつに伺いました。ドアを開けると、眠っている子どもを心配そうに見つめる女性がいました。ベッドの柵を握る指3本の中ほどにばんそうこうが貼られ、血がにじんでいるのが目に入りました。

伺うと、お孫さんを預かっていて、朝、起きると体が熱く感じたので、熱を測ろうと体温計を探していたときです。急にうなるような声がして、振り返ると、「グーっと息をつめ、体をガクガクと震わせ、もうビックリ、とにかく舌をかんではいけないと思いとっさに指を入れてしまった」とのことでした。

入院して少し落ち着いたようですが、血のにじんだばんそうこうの指が痛々しかったのを覚えています。

突然、予期しないことが起こると誰もが慌ててしまいます。子どもが目の前でひきつけを起して慌てた経験がある方もいるのではないでしょうか。

症状④「ひきつけ（けいれん）」

ひきつけには、熱に関係するものと関係しないものがあります。

子どもに多いのが体温が上がっているときに起こる「熱性けいれん」で、生後半年くらいから3歳くらいまでに多く起こります。熱の出るような病気にかかったときに、熱の上がり始めから上がりきる間に起こるので、体温が上がっているときは注意が必要です。

ひきつけは、突然手足を突っ張らせ全身を硬くし、息をつめて顔色が悪くなります。目が白目になり歯を食いしばるほか、手足を体にひきつけるように曲げガクガクと震わせます。口から泡をふく場合もあり、ひきつけを起している間の意識はなくなります。

子どもは神経の発達が未熟なので発熱の刺激でひきつけを起こすとも言われています。また、両親や家族が子どもの頃にひきつけを起した経験がある場合は、起こしやすい傾向にもあるようです。

▼顔を横に向け静かに様子を見る

ひきつけを起したときは、息をつめ、歯を食いしばるので、舌をかんでしまわないかと心配される方もいますが、そのようなことはほとんどありません。心配なのは、そのときに食べていたものや吐いたもので喉を詰まらせてしまうことです。

また、びっくりして子どもの体を強く揺さぶったりする方もいますが、かえって刺激になってしまいます。

熱性けいれんは、ほとんどが数分で治まります。窒息を予防するために、ゆっくりで大丈夫なので、落ち着いて顔を横に向けて様子を見ます。そのときに可能であれば、ひきつけが続いた時間や落ち着いたときの体温を受診のときに伝えると良いでしょう。

▲ひきつけを起したときは顔を横に向ける

▼心配なときはすぐ病院へ

熱性けいれんの場合はあまり心配ありませんが、初めてのひきつけ、繰り返し起こすひきつけ、長い時間のひきつけは、病院を受診しましょう。

発熱以外に、吐いたり、頭痛を伴うひきつけは髄膜炎（ずいまくえん）や脳炎（のうえん）などの病気も考えられます。熱がないのにひきつけを起した場合はてんかんなどの病気も考えられますので、いずれも早めの受診が必要です。

大学図書館へようこそ！

高校３年生の皆さんは、いよいよ受験シーズンを迎えましたね。教科の試験のほかに小論文を書く方もいるでしょう。

試験本番に備え、大学図書館で小論文を書く練習をしてみませんか？いつもと違う環境でちょっと緊張感を味わうことができるかもしれません。

小論文を書く予定がない方も、大学ではレポートなどを書く機会が多くなりますから、基本を身につけることは大きな自信につながります。

大学図書館は月～金曜日の21時まで開館しています。夜道に気をつけてご利用ください。

大学図書館にはこんな本があります

～～図書館員のおすすめ図書～～

『やさしい文章術　レポート・論文の書き方』
樋口裕一　中公新書ラクレ／中央公論新社

『東大合格生のノートはかならず美しい』
太田あや　文藝春秋

『10代のうちに知っておきたい折れない心の作り方』
水島広子　紀伊國屋書店

※これらの図書は大学図書館本館にあります。

●問い合わせ　名寄市立大学図書館　☎01654②4199
（本館：内線3114　分館：内線2200）